**平成２７年度全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技大会**

**高円宮賜牌　第４８回全国高等学校アーチェリー選手権大会**

２０１５　君が創る 近畿総体



|  |
| --- |
| **競技上の注意** |



【開会式、閉会式】　　橿原公苑第１体育館　　　　奈良県橿原市畝傍町５３番地

　　【競技会場】　　　　　橿原公苑陸上競技場　　　　　　　　同　　　上

　　【練習会場】　　　　　佐藤薬品スタジアム　　　　　　　　同　　　上

(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部

　平成２７年度全国高等学校総合体育大会奈良県実行委員会

＜ 競技日程 ＞

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 日程 | 実施内容 | 時　　　　間 | 摘　　　　　要 |
|  | ８月５日(水) | 10：00　～　16：00 | 練習会場開設 |
|  | ８月６日(木) | 10：00　～　11：0012：00　～　12：5513：05　～　14：0015：30　～　16：20 | 監督会議男子公式練習・女子用具服装検査女子公式練習・男子用具服装検査開会式 |
| 9：00　～ 14：00 | 練習会場開設 |
| １日目 | ８月７日(金)団体・個人戦ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ(予選ラウンド) | 8：40　～　12：3013：20　～　17：1013：00　・　17：40 | 男子ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝ(予選ラウンド)女子ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝ(予選ラウンド)男女ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝ(予選ラウンド)通過校(選手)発表「掲示発表による」 |
| 9：00　～　17：00 | 練習会場開設 |
| ２日目 | ８月８日(土)個人戦決勝ラウンド | 8：40 ～　 9：259：40 ～ 10：2510：45　～ 11：1511：25　～　11：5512：05　～　12：3512：45　～　13：1513：35　～　14：0014：10　～ 14：3514：45　～ 15：1015：20　～ 15：4516：10　～ 16：40 | 男女1/32ｲﾘﾐﾈｰｼｮﾝ(１回戦１組目)男女1/32ｲﾘﾐﾈｰｼｮﾝ(１回戦２組目）男女1/16ｲﾘﾐﾈｰｼｮﾝ(２回戦)男女1/8ｲﾘﾐﾈｰｼｮﾝ(３回戦)男女1/4ファイナル(準々決勝戦)男女セミファイナル(準決勝戦)女子ﾌﾞﾛﾝｽﾞﾒﾀﾞﾙﾏｯﾁ(３位決定戦)男子ﾌﾞﾛﾝｽﾞﾒﾀﾞﾙﾏｯﾁ(３位決定戦)女子ｺﾞｰﾙﾄﾞﾒﾀﾞﾙﾏｯﾁ(優勝決定戦)男子ｺﾞｰﾙﾄﾞﾒﾀﾞﾙﾏｯﾁ(優勝決定戦)個人戦表彰式 |
| 9：00　～ 16：00 | 練習会場開設 |
| ３日目 | ８月９日(日)団体戦決勝ラウンド | 8：40 ～　 9：259：40 ～　10：2510：35　～　11：0511：15　～　11：4512：20　～　12：4512：55　～　13：2013：30　～　13：5514：05　～　14：3015：20　～　16：10 | 男女1/8ｲﾘﾐﾈｰｼｮﾝ(１回戦１組目)男女1/8ｲﾘﾐﾈｰｼｮﾝ(１回戦２組目)男女1/4ｲﾘﾐﾈｰｼｮﾝ(準々決勝戦)男女セミファイナル(準決勝戦)女子ﾌﾞﾛﾝｽﾞﾒﾀﾞﾙﾏｯﾁ(３位決定戦)男子ﾌﾞﾛﾝｽﾞﾒﾀﾞﾙﾏｯﾁ(３位決定戦)女子ｺﾞｰﾙﾄﾞﾒﾀﾞﾙﾏｯﾁ(優勝決定戦)男子ｺﾞｰﾙﾄﾞﾒﾀﾞﾙﾏｯﾁ(優勝決定戦)団体戦表彰式・閉会式 |

＊タイムテーブルは予定時間のため、天候その他により変更することがあります。

＜ 競技規則 ＞

　(公社)全日本アーチェリー連盟競技規則および(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が定める大会運営規定により実施する。

＜ 大会運営規定 ＞

１　用具・服装について

　　(公財)全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部が定める服装規定により実施する。

　(１)　用具服装検査は、指定された場所・時間帯に受けること。

　(２)　検査票には、予め必要事項を各選手が記入し検査時に持参すること。

　(３)　検査時には当該校の監督が立ち会い、学校単位で実施する。

　(４)　競技に使用する全ての用具および服装について検査を受けること。

　(５)　公式練習・競技中も、用具および服装は検査継続の対象とする。

　(６)　用具の交換や修理に際しては、その都度審判員のチェックを受けること。

２　公式練習について

　(１)　標的は距離70ｍ、122ｃｍ的を使用し、予選時の標的立ち順に従って行う。

　(２)　出場登録された選手のみを対象とする。

　(３)　監督・選手・マネージャーは競技時に使用する服装を着用し、選手・マネージャーは必ず競技者番号（ゼッケン）を装着し、監督は「ＩＤカード」を装着すること。

　(４)　ＡＢ・ＣＤ矢取り、ＣＤ・ＡＢ矢取りの２立ち(４分)で実施する。

　(５)　用具服装検査・公式練習の日程は下記のとおりとする。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ８月６日（木） |  | 男　子 | 女　子 |
| 公式練習 | 12：00～12：55 | 13：05～14：00 |
| 用具服装検査 | 13：05～14：00 | 12：00～12：55 |

３　選手のエントリーと棄権について

　(１)　団体戦のエントリーは４名までとし、ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド）の成績は上位３名の合計得点で決定する。決勝ラウンドはエントリーされた４名の内、３名で行射を行う。

なお、参加申し込み後のエントリー選手の交代は認めない。

　(２)　選手の棄権、団体決勝ラウンド出場メンバーの届け出期限・場所は、以下の通りとする。

|  |  |
| --- | --- |
| ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド） | ８月７日（金）　男子：８：１０まで　　女子：１２：５０までエントリー選手の棄権がある場合のみ競技本部へ申し出る。ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド）開始３０分前までとする。 |
| 団体決勝ラウンド | ８月８日（土）　１０：００まで団体戦出場メンバー３名を記した「団体戦決勝ラウンドエントリー用紙」を競技本部に提出する。 |

４　競技・行射方法について　（競技会場へは監督、選手、マネージャーが入場できる）

1. ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ(予選ラウンド)およびシュートオフ、順位の決定

　　　ア　団体戦ならびに個人戦の予選は同一選手をもって実施する。

　　　　　男子は８：４０～、女子は１３：２０～　(隔年で男子女子の時間帯を交代)

　　　イ　行射は１標的２名の２立ち(ＡＢ／ＣＤ)で、距離は70ｍ、122ｃｍ的を使用し、４分６射ごとに採点および矢取りを行う。なお、選手の行射エリアは、シューティングライン上のポイントとポイントの間とする。

　　　ウ　競技前に練習を設ける。(ＡＢ・ＣＤ矢取り、ＣＤ・ＡＢ矢取り)

　　　エ　矢取りは当該出場選手が行うものとする。

　　　オ　弓具破損等で審判へアピールするときは、シューティングラインから外れ、挙手して審判員に知らせる。

　　　カ　団体戦はｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド）上位16チームが、個人戦はｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド）上位64名が決勝ラウンドに進出するものとする。

キ　決勝ラウンドへの進出のときの同点は１０点数、Ｘ数を考慮しない。

ク　個人戦の決勝ラウンド進出をかけた順位(64位)で同点が生じた場合は、フィールド中央に近いどちらの選手も使用していない標的を使用し、１競技者１標的で１射(40秒)の得点によるシュートオフを行う。同点の場合は中心に近い矢により決定する。これでも順位が決まらない場合は、順位が決定するまで繰り返す。

　　　ケ　団体戦の決勝ラウンド進出をかけた順位(16位)で同点が生じた場合には、フィールド中央に近いどちらのチームも使用していない標的を使用し、１チーム（チーム上位得点者３名）１標的で３射(各競技者１射)の得点によるシュートオフを行う。（制限時間40秒)

　　　　 　　シュートオフが同点の場合、チーム内の中心に最も近い矢により決定する。これも同じならば、チーム内で２番目に中心に近い矢で、これも同じならば３番目に中心に近い矢で決定する。これでも順位が決まらない場合は、同様の方法で順位が決定するまで繰り返す。

　　 コ　ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド）の得点が同点だった場合、順位は次のようにして決定する。

　　　　ａ　10点の数の最も多いもの。

　　　　ｂ　Ｘ(インナー10)数の最も多いもの。

　　　　ｃ　a、ｂが同数の場合は同順位とする。

　　　　ｄ　決勝ラウンドの１回戦における対戦表の位置を決めるとき、上記ａ、ｂによって決定する。それでも順位が決まらない場合は、ディスクトスによって順位を決定する。

　　　サ　監督・マネージャーは、ＷＷＬまで立ち入ることができる。

　(２)　個人戦決勝ラウンド

　　　ア　距離は70ｍ、122ｃｍ的を使用して行う。

　　　イ　競技者番号（ゼッケン）は予選通過者決定後に配布する個人戦決勝ラウンド用を着ける。

　　　ウ　１組目、２組目とも１回戦の競技開始前にのみ練習を設ける。(２分×２回)

　　　エ　１・２回戦においては対戦する２名は同じ標的を使用し、３回戦からは１標的１名で行う。

　　　オ　各対戦の立ち位置はトーナメント表どおりとする。(巻末トーナメント表参照)

　　　カ　対戦はセットシステム(１セット２分３射５セットマッチ)で実施し、各セットの勝者は２ポイント、同点の場合は両競技者に１ポイント、シュートオフの勝者は１ポイントを獲得する。各対戦で６ポイント以上に達した競技者は勝者となり次のラウンドに進む。

　　　キ　１回戦～準決勝戦の行射について

　　　　ａ　２名同時行射とし、採点、得点記録、ポイント表示は当該選手が行う。

　　　　ｂ　ブザー２声でシューティングラインに入り、ブザー１声で行射を開始する。

ｃ　勝敗が決したら、選手サイン後に後方の審判員から確認を受け、スコアボード後方で勝者コ

ールを受ける。

※審判員確認時点で計算ミス等が発覚し、勝敗が違っていても、スコアカードの記載内容が優先される。

ｄ　５セット終了時で同点の場合は、２名同時行射で１射（制限時間40秒）のシュートオフにより勝敗を決定する。同点の場合は、的の中心に近い矢の選手を勝者とする。これも同じならば、シュートオフを順位が決定するまで行う。

　　 ク　３位決定戦・優勝決定戦の行射について

　　 ａ ３位決定戦・優勝決定戦は交互射ちとし、１射（20秒）ごとに行射を交代する。

　　　　ｂ　交互射ちの順番は、予選ラウンドの上位者が決定する。

 ｃ　先攻の選手は、行射開始の合図（ブザー）で行射を開始する。

　　　　ｄ　第２セット以降は、合計ポイントの低い選手が先攻となる。

　　　　ｅ　各セット終了時に両者の合計ポイントが同点の場合は、第１セット先攻の選手が先に行射する。

　　　ｆ　後攻の選手は、先攻の選手が射ち終え、自分のタイマーが減算を始めたのを確認してから行射を行う。

　　　　ｇ　両者がそれぞれ３射を射ち終えた時点でブザーが３声鳴り、エージェント（得点記録代行者）が記入、確認を行う。

ｈ　５セット終了時で同点の場合は、交互射ち各１射（20秒）のシュートオフにより勝敗を決定する。第1セット先攻の選手が先に射つ。同点の場合は、的の中心に近い矢の選手を勝者とする。これも同じならば、シュートオフを順位が決定するまで行う。

　　　ケ　弓具破損によるロスタイムは認めない。

コ　マッチ戦の敗者の順位決定法

　　　　ａ　決勝ラウンド１回戦の敗者は、全員を３３位とする。

　　　　ｂ　決勝ラウンド２回戦の敗者は、全員を１７位とする。

　　　　ｃ　決勝ラウンド３回戦の敗者は、全員を９位とする。

　　　　ｄ　準々決勝戦の敗者は、全員を５位とする。

　　　　ｅ　最上位の順位は、３位決定戦、優勝決定戦の結果による。

サ　監督・マネージャーは、ＷＷＬまで立ち入ることができる。

　(３)　団体戦決勝ラウンド

　　　ア　距離は70ｍ、122ｃｍ的を使用して行う。

　　　イ　競技者番号（ゼッケン）は予選通過チーム決定後に配布する団体戦決勝ラウンド用を着ける。

　　　ウ　チーム内の選手の矢は、ノックやフェザーで容易に区別ができるようにする。

　　　エ　１回戦の１組目、２組目とも競技開始前にのみ練習を設ける。(２分×２回)

　　　オ　全対戦において１チーム１標的を使用する。

　　　カ　各対戦の行射位置はトーナメント表どおりとする。(巻末トーナメント表参照)

　　　キ　対戦はセットシステム（１セット２分６射（３名×２射）４セットマッチ)で実施し、各セットの勝者は２ポイント、同点の場合は両者とも１ポイント、シュートオフの勝者は１ポイントを獲得する。５ポイント以上に達したチームは勝者となり次のラウンドに進む。

　　　ク　両チームの３選手が１ｍライン後方に待機した状態で対戦が始まる。

　　　ケ　１回戦～準決勝戦の行射について

　　　　ａ　ブザー２声で、１ｍライン後方で行射開始に備える。

　　　　 ※ムーブアップ(10秒)の間に１ｍラインを越えてはならない。

　　　　ｂ　ブザー１声で各チーム１選手がシューティングラインに入り行射を開始する。

　　　　ｃ　全ての選手が行射を終えるか、制限時間が経過した時点でブザー３声が鳴り、矢取りと採点を行う。

　　　　ｄ　３選手はどのような順序で行射を行ってもよいが、１度に１選手２本以内を行射する。1セット6射の内、1名の競技者が2本の矢をすべて行射しなかった場合でも、行射しなかった矢はそのセットに含まれ、Ｍ（ミス）と採点する。

ｃ　勝敗が決したら、代表者サイン後に後方の審判員から確認を受け、スコアボード後方で勝者

コールを受ける。

※審判員確認時点で計算ミス等が発覚し、勝敗が違っていても、スコアカードの記載内容が優先される。

　　　　ｅ　団体戦決勝ラウンドの罰則規定は、Ｐ１５の『参考資料』の【団体戦の罰則規定について】による。

　　 コ　３位決定戦・優勝決定戦の行射について

　　 ａ ３位決定戦・優勝決定戦は交互射ちのマッチ戦とする。

　　　　ｂ　交互射ちの順番は、ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド）の上位チームが決定する。

　　　　ｃ　第２セット以降は、合計ポイントの低いチームが先攻となる。

　　　　ｄ　各セット終了時に両者の合計ポイントが同点の場合は、第１セット先攻のチームが先に行射

する。

ｅ　先攻するチームはブザー２声で１ｍライン後方で行射開始に備える。

　　　　　　　※ムーブアップ(10秒)の間に１ｍラインを超えてはならない。

　　　　ｆ　先攻するチームはブザー１声で１番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始し、３番目の選手が行射を終え１ｍラインをまたぎ越した時に時計が止まり、最終矢の得点が表示されてから後攻チームの行射となる。

　　　　ｇ　後攻のチームは１ｍラインの後方で待機し、自チームのタイマーが減算を始めたのを確認してから、１番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始する。３番目の選手が行射を終え１ｍラインをまたぎ越した時に時計が止まり、最終矢の得点が表示されてから先攻チームの行射となる。

　　　　ｈ　先攻のチームは１ｍラインの後方で待機し、自チームのタイマーが減算を始めたのを確認し、１番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始する。

ｉ　行射または行射時間が終了するとタイマーが止まり、最終矢の得点が表示されてから後攻チ

ームの行射となる。

ｊ　後攻のチームは１ｍラインの後方で待機し、自チームのタイマーが減算を始めたのを確認

し、１番目の選手がシューティングラインに入り行射を開始する。

ｋ　行射または行射時間が終了するとブザーが３声鳴り、エージェント（得点記録代行者）が記入、確認を行う。

ｌ　３選手はどのような順序で行射を行ってもよいが、１度に１選手１本のみを行射する。1セット6射の内、1名の競技者が2本の矢をすべて行射しなかった場合でも、行射しなかった矢はそのセットに含まれ、Ｍ（ミス）と採点する。

　　　サ　弓具破損によるロスタイムは認めない。

　　　シ　１人の選手が行射終了後、１ｍライン後方に下がるまで次の選手は１ｍラインを越えてはならない。

　　　ス　チームの３選手全員が制限時間内に行射を終了しなければならない。

　　　セ　１ｍライン後方にいる選手は、スコープ等を用いて的中場所を確認し、行射中の選手に教示することができる。監督・マネージャーのうち１名はコーチボックスに入ることができ、選手に指示を与えることができる。その際、手持ちの双眼鏡または三脚付きスコープ等を使用することができる。（スコープ等はそれぞれ１つずつ持ち込むことができる）

　　　ソ　１回戦～準決勝戦までの対戦で同点が生じた場合は、得点による３射１分(各競技者１射)のシュートオフにより勝敗を決定する。シュートオフではチームの３選手が１射ずつ行射する。この場合も１名ずつシューティングラインに立ち行射する。３射の合計点が同点の場合は、的の中心に最も近い矢を有するチームを勝者とする。これも同じならば、チーム内で２番目(または３番目)に近い矢を有するチームを勝者とする。これでも順位が決まらない場合、順位が決定するまで繰り返す。

　　　タ　３位決定戦・優勝決定戦でのシュートオフは、交互行射を行い、第１エンド目に先攻したチームが先に行射する。シュートオフには、その対戦で使用した標的を用いる。

　　チ　マッチ戦の敗者の順位決定法

　　　　ａ　決勝ラウンド１回戦の敗者は、全員を９位とする。

　　　　ｂ　準々決勝戦の敗者は、全員を５位とする。

ｃ　最上位の順位は、３位決定戦、優勝決定戦の結果による。

ツ　チームの監督・マネージャーのうち１名が、※コーチボックスに入ることができる。

（コーチボックスに入らない監督・マネージャー及び行射を行わない選手は、ＷＷＬまで

立ち入ることができる。）

　　　　　　※審判員が選手の行為等に対して注意・指導を与える場合、コーチボックスに監督がいないときは、監督を通さず直接選手、マネージャーに行うことになる。

　(４)　標的および競技者番号（ゼッケン）について

ア　ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド）では、各選手はプログラムに記載された標的を使用する。

イ　決勝ラウンドでは、ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド）の順位により使用標的が決定する。

ウ　各参加選手及びマネージャーは、支給された競技者番号（ゼッケン）を必ず装着する。

　　　エ　予選通過選手・チームにはゼッケンを配布する。順位決定後、競技本部へ取りにくること。

５　得点記録について

1. 得点記録は別紙のスコアカード (予選用・決勝用)を使用し、同一標的を使用する全選手で行う。また、選手の得点は携帯端末を使用し入力した後、選手全員が確認して記録を送信する。

　(２)　 ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド）の得点記録は、次の通り各々が分担して行う。

ア　矢を所有する競技者の指差し呼称（その際は矢には触れないよう注意すること）にしたがって、

高い得点から順にスコアカードに記入する。

その標的の他の競技者は、呼称確認・端末入力・得点記入を行う。

(インナー10はアルファベットのＸを、０点はアルファベットのＭを記入・入力する。)

イ　矢の所有者および他の同一標的を使用する全選手が、それぞれを分担して得点確認を行い、

確実に実施するものとする。

ウ　選手はスコアカードと携帯端末の得点が合っていることを確認する。

　　　エ　競技者自身が関与する得点記録業務の内容は、他の競技者の得点記録や順位に関する権利にも

影響を及ぼす。それぞれが下記の順序のとおり分担業務を確実に行うこと。役割等を拒んだ場

合は競技会への参加権利を失うものとする。

　　　　１的４人

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 順序 | 得点記録の順序／業務分担 | 競技者Ａ | 競技者Ｂ | 競技者Ｃ | 競技者Ｄ |
| １ | Ａの得点記録 | 得点呼称 | 呼称確認 | 端末入力 | 得点記入 |
| ２ | Ｂの得点記録 | 得点記入 | 得点呼称 | 呼称確認 | 端末入力 |
| ３ | Ｃの得点記録 | 端末入力 | 得点記入 | 得点呼称 | 呼称確認 |
| ４ | Ｄの得点記録 | 呼称確認 | 端末入力 | 得点記入 | 得点呼称 |
| 備考 | ・スコアカードの間違いを防ぐため、記載の名前を呼んでから記録する。・得点呼称された得点を記入・入力する際は、得点を復唱する。・的中孔の全てに、Ｌ字でチェックする。 |

　　　　１的３人

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 順序 | 業務分担 | 競技者Ａ | 競技者Ｂ | 競技者Ｃ |
| １ | Ａの得点記録 | 得点呼称 | 端末入力・呼称確認 | 得点記入・呼称確認 |
| ２ | Ｂの得点記録 | 得点記入・呼称確認 | 得点呼称 | 端末入力・呼称確認 |
| ３ | Ｃの得点記録 | 端末入力・呼称確認 | 得点記入・呼称確認 | 得点呼称 |
| 備考 | ・スコアカードの間違いを防ぐため、記載の名前を呼んでから記録する。・得点呼称された得点を記入・入力する際は、得点を復唱する。・的中孔の全てに、Ｌ字でチェックする。 |

　(３)　競技者は得点の判読に対する自己確認、または同一標的を使用する選手それぞれの立場で疑義が生じた場合、いずれからも審判員に最終判定を求めることができる。

　(４)　競技終了後、選手(団体戦決勝ラウンドの場合は代表者)は、合計点、１０点数、Ｘ数、確認のサインを記入したスコアカードを提出しなければならない。サイン不履行の場合、競技本部はスコアカードの受け取りを拒否することができる。主催者が間違いを発見した場合、点数は訂正される。

　(５)　合計得点が記入されないままサインし、記録本部に提出された場合は「記録なし」とする。

(６)　個人戦決勝ラウンドの１回戦から準決勝戦までのスコアカードへの記入及びスコアボードへのポイント表示は選手が行う。３位決定戦・優勝決定戦では得点の判読を審判員が行い、エージェント(得点記録代行者)がスコアカードに記入、確認を行う。この判読が最終判定である。

　(７)　団体戦決勝ラウンドの１回戦から準決勝戦までのスコアカードへの記入及びスコアボードへのポイント表示は選手が行う。団体戦の３位決定戦・優勝決定戦では得点の判読を審判員が行い、エージェント(得点記録代行者)がスコアカードに記入、確認を行う。この判読が最終判定である。

　(８)　同一標的選手全員の得点記録業務が完了し、得点記入が終わったことを選手全員が確認するまで、矢・標的面・標的支持枠等に一切触れてはならない。

　(９)　スコアカードに記載された得点の訂正は、矢を抜き取る前に審判員を呼び、２本線で該当エンドのすべて矢の訂正を行い、その的の選手全員がサインし、審判員に確認してもらう。同じエンドで２回以上の訂正をする場合、訂正欄がないため審判員に訂正してもらう。

　(10)　得点記録業務に必要な絶対条件を、各自が完全に履行すること。不注意による不履行も「合意の違反行為」とみなされる。

　　　ア　スコアカードに記載される各エンドのスコアが正確であることについて、各選手は競技者としての責任を負わなければならない。

　　　イ　各々の分担業務遂行のため、選手名を聞き漏らさないこと。

　　　ウ　誤りを防ぐために、用紙・選手名・記入上の確認を行うこと。

　　　エ　得点記入した選手が復唱しない場合は、復唱を必ず要求すること。

　　　オ　声量不足で聞き取れない場合は、再度の復唱と声量の要求をすること。

　　　カ　得点呼称時に、必ず「自分のスコアカードの記入欄」であることを確認すること。

(11)　得点記録業務において、次の場合には当該選手並びに同一標的を使用する選手全員の失格を宣言

することがある。

　　　ア　自身の虚偽や不正申告の場合

　　　イ　上記行為の合意・容認の場合

　　　ウ　各厳守事項に対する不全・不履行の場合

　(12)　競技者自身が標的に行けない場合、審判員の許可を得てチームの監督、同じ標的の他の競技者またはその競技者の代行者に得点記録と矢の回収の権利を委託することができる。

６　練習会場の利用について

(１)　練習会場は佐藤薬品スタジアム（橿原公苑野球場）に設置する。

　(２)　日程・時間帯は下のとおりとする。

　　　　　８月５日(水) 自由練習 10：00～16：00　開設

　　　　　８月６日(木)　自由練習 9：00～14：00　開設

　　　　　８月７日(金)　自由練習 9：00～17：00　開設

　　　　　８月８日(土)　自由練習　 9：00～16：00　開設

　(３)　｢４分間行射、矢取り｣を繰り返す自由練習とする。

　(４)　一時的に利用者が集中する場合は２～３立ちの行射に切り替える。

　(５)　練習会場の出入りには、全員必ず「ＩＤカード」を装着すること

（選手・マネージャーは必ず競技者番号（ゼッケン）を装着すること。）

　　　　＊練習会場へ入る際に係が確認します。

７　失格について

　(１)　選手の違反行為に対して

　　　　　１回目…………注意

　　　　　２回目…………警告

　　　　　３回目…………失格の処分とする。

　　　　ただし、大会の秩序を著しく失墜混乱させる行為・スポーツマンシップに反する行為等については、１回目での失格もあり得る。

　(２)　監督の違反行為についても同様であるが、特に以下の事項に注意すること。

　　　ア　喫煙については所定の場所以外では厳禁のこと。

　　　イ　その他、｢競技規則｣や｢総体参加心得｣に反する行為とみなされた場合は、競技場への立ち入りを制限する。

８　その他の事項について

　(１)　的紙の一斉交換は以下のとおりとする。

　　　ア　ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド）　　８月７日(金)

 　　・午前男子練習前

　　　　　　・男子ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド）終了後

　　　イ　個人戦決勝ラウンド　　８月８日(土)

 　　・練習開始前

 　　・競技委員長が必要と認めた場合。(選手よりアピールがあるなしにかかわらない)

　　 ウ　団体戦決勝ラウンド　　８月９日(日)

 　　・練習開始前

 　　・競技委員長が必要と認めた場合。(選手よりアピールがあるなしにかかわらない)

　(２)　競技場の入場について

　　　　　監督・選手・マネージャーには、「ＩＤカード」を配布するので、大会期間中、競技場内に入場する場合は必ず装着すること。（引率のみの先生は入場できません）

　(３)　使用する弓具はＷＬの後方に整頓して置く。（弓の一部がＷＬからはみ出さないようにする）

　(４)　ロストアローについて

ア　競技会場および練習会場で行射により矢を紛失した場合は、審判員(競技会場)または練習会場係(練習会場)に必ず報告すること。

イ　報告のない矢が競技中に見つかった場合は、その本数分の最高点を削除する。

　(５)　記録について

　　　ア　ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド）では、６射終了毎に会場内の速報掲示板に記録を掲示する。

　　　イ　ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド）終了後に行う記録の確認は、速報掲示板に掲示された確認記録一覧表による。記録を掲示してから10分間の時間を設け、公式記録に対する異議申し立てを受け付ける。

　　 ウ　決勝ラウンドでは、各対戦終了毎にトーナメントボードに結果を表示する。

　　 エ　確定記録は、ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド）・決勝ラウンドとも、ＷＥＢ配信とする。

＜配信先＞全国高体連アーチェリー専門部ホームページ「 <http://www.zk-archery.org/>」

　(６)　異議申し立てについては、いかなる場合も監督を通じて競技本部で受け付け、競技委員会の裁定をもって最終決定とする。

　(７)　携帯電話等を競技場内で使用すること、及び着信音を鳴らすことを厳禁とする。

　(８)　個人戦表彰式・団体戦表彰式および閉会式については以下のとおりとする。

　　 ア　個人戦表彰式には、個人戦決勝ラウンドで５位以内に入賞した選手が参加する。

　　 イ　団体戦表彰式および閉会式には、団体戦決勝ラウンドに出場した全選手・マネージャーが参加することを原則とする。

９　スコアカード

　(１)　 ｸｫﾘﾌｨｹｰｼｮﾝﾗｳﾝﾄﾞ（予選ラウンド）用スコアカード

　　 ア　スコアカードは予選ラウンド練習前に配布される。

　　　 (選手は競技者番号・選手名・所属学校名・前半後半に〇印を記入すること)

　　 イ　スコアカードは１的ごとにＡ４版１枚とする。

　 　ウ　１枚目(黒)：本部用、２枚目(青)：選手用、３枚目(赤)：記録用である。

　　 　選手はスコアカードに得点を記入し選手テント後方のテーブル上のトレーに置くこと。

　　 　選手用(青)は各自で保管する。

　　 エ　得点記入は下から記入する。

　 　オ　36射終了時に、選手サイン・記録者サインを忘れないこと。

　　　　　　※サイン不履行の場合は、競技本部はスコアカードの受け取りを拒否することができる。



　(２)　個人戦決勝ラウンド用スコアカード

　 　ア　スコアカードは各対戦前に配布されるので必要事項を記入し、開始時に担当審判に提出する。(選手は的番号、競技者番号・選手名・学校名を記入する。)

　 　イ　スコアカードは１対戦(２人)に１枚で記入する。

　　 ウ　スコアカードは１枚目(黒)：本部用、２枚目(赤)：記録用となっている。

　　 　対戦終了後、選手はスコアカードを審判に渡す。

　　 エ　対戦終了後に選手サインを忘れないこと。

　　　　　　※サイン不履行の場合は、競技本部はスコアカードの受け取りを拒否することができる。



(３)　団体戦決勝ラウンド用スコアカード

　　 ア　スコアカードは各対戦前に配布される。必要事項を記入し開始時に担当審判に提出する。

　　　　 (選手は的番号・競技者番号・学校名を記入する。)

　　イ　スコアカードは１対戦(２チーム)に１枚で記入する。

　　ウ　スコアカードは１枚目(黒)：本部用、２枚目(赤)：記録用となっている。

　　 　選手は６射ごとに記録し、集計用携帯端末に入力する。

　　エ　対戦終了後に選手サインを忘れないこと。

　　　　※サイン不履行の場合は、競技本部はスコアカードの受け取りを拒否することができる。



個人戦決勝トーナメント表

※ □内の数字は標的番号を表す。

※ １・２回戦は１標的２名の行射とする。

※ 左右の立ち位置は、トーナメント表通りとする。

※ １回戦の□は１組目の標的番号、○は２組目の標的番号を表す。





団体戦決勝トーナメント表

※ □内の数字は標的番号を表す。

※ 左右の立ち位置は、トーナメント表通りとする。

※ １回戦の□は１組目の標的番号、○は２組目の標的番号を表す。





『参考資料』

【団体戦の罰則規定について】

１　１ｍラインを越えるのが早すぎたとき。

『規則』　１名の選手しか１ｍラインを越えてはならない。

　事例：１ｍライン以内に複数の選手が立ち入ったとき。

　　対応：イエローカードが出されたら、後から１ｍライン内に入った選手は、１ｍライン後方に戻ってやり直す。矢はクィーバーに戻す。

　　　　　警告を無視して行射を続けたとき(そのチームの次の矢が行射された時点)、

　　　　　レッドカードが出され、最高点削除。

２　クィーバーから矢を早く抜きすぎたとき。

『規則』シューティングラインをまたいで立つまではクィーバーから矢を取り出してはならない。

　　対応：イエローカードが出されたら、後から１ｍライン内に入った選手は、１ｍライン後方に戻ってやり直す。矢はクィーバーに戻す。

　　　　　警告を無視して行射を続けたとき(そのチームの次の矢が行射された時点)、

　　　　　レッドカードが出され、最高点削除。

３　決められた本数以上の矢を射ったとき。(時間外発射を含む)

　事例①：１人の選手が３本行射した。（１回戦から準決勝の場合）

　　対応：重大な違反として対処する。

　　内容：レッドカードが出され、最高点削除となる。

　事例②：制限時間を過ぎて矢を発射した。

　　対応：重大な違反として対処する。

　　内容：レッドカードが出され、最高点削除となる。

　《付記》選手は、その選手のものであるとはっきり識別できる矢を使わなければならない。

　　　　　審判員が一目見て、３選手がそれぞれ２射しか発射していないことが確認できるように、各選手はチーム内の他の選手とは明らかに違った、ノック・フェザー・クレストを使用すること。

４　コーチボックス内にいる者が、コーチボックスから出たとき。

『規則』　監督は、選手が行射中は、コーチボックスの中かダブルウエティングライン後方にいなければならない。

　　　　　１回目の違反　→　対応：審判は、コーチボックスを指す。

　　　　　２回目の違反　→　対応：その対戦中、コーチボックスから退去させる。

　　　　　３回目の違反　→　対応：その日の競技終了まで競技場への立ち入りを禁止する。

５　行射開始の合図以前に１ｍラインを越えたとき。

『規則』　全ての団体戦は、１ｍライン後方に待機した状態で始まる。

　事例①：選手がブザー２声(ムーブアップ)で１ｍラインを越え、シューティングラインに移動した。

　　対応：小さな違反として対処する。

　　内容：イエローカードが出されたら、後から１ｍライン内に入った選手は、１ｍライン後方に戻ってやり直す。矢はクィーバーに戻す。

　　　　　警告を無視して行射を続けた場合、レッドカードが出され、そのエンドの最高得点が削除。

　《付記》かけ声、虚点の発声等による錯乱・虚勢行為は、競技者としてはあるまじき行為である。相手の立場を尊重するフェアープレーの精神で、真摯な競技態度であることを望む。この点については、各監督に徹底して事前指導を要望する。

　　　　　また、競技場外（応援席等）の応援者から同様の行為があった場合は、競技場内への立ち入りを禁止するなどの対処を行うことがある。